

会議名	令和5年度 第1回 稲沢市社会教育委員会・公民館運営審議会
開催日時	令和5年5月26日(金) 午後2時00分～午後4時15分
開催場所	稲沢市勤労福祉会館 3階 第2・3会議室
主催	生涯学習課
議題	◎ 委嘱辞令交付・あいさつ・自己紹介 議題 1 委員長・副委員長の選出について 2 令和4年度主要事業報告について 3 令和5年度主要事業に係る取り組みについて 4 その他
資料	別添のとおり
出席者	【委員】 山内晴雄、吉川光彦、大野芳樹、定行加保里、大室有美、服部みどり、 藤田美知子、牛嶋みゆき、内藤伸一朗、松原正明、犬飼文崇 ※欠席…栗林芳彦、渡辺香織、牧修 【事務局】 (教育長) 広沢憲治 (教育部長) 荻須正偉 (生涯学習課) 課長 佐藤雅之、主幹 松尾俊明・恒川浩、 社会教育指導員 橋本孝、主事 加藤裕樹 (スポーツ課) 課長 江頭弘幸 (図書館) 館長 塚本ゆかり、主幹 水野正己・石川路子 (美術館) 館長 長谷川 隆、主査 中井 弘次
備考	傍聴者なし

【会議概要】

委嘱辞令交付

・令和5年4月1日から令和7年3月31日までの2年間、新たに委嘱された委員に教育長より委嘱状を交付

◎ 教育長あいさつ

(各委員より名簿順に自己紹介)

(事務局より自己紹介)

◎議題

1 委員長・副委員長の選出について

- ・慣例により、互選による委員長の選出をお願いしたい。
- ・服部委員より山内委員の推薦があり、他の委員から異議なしで委員長は山内委員に決定。
- ・副委員長については慣例で委員長による指名を行っており、山内委員長より副委員長に吉川委員を指名。

◎委員長あいさつ

◎副委員長あいさつ

2 令和4年度主要事業報告について

資料1について各課より説明(生涯学習課、スポーツ課、図書館、美術館の順)

(生涯学習課)

- ・前年に加えて寿教室特別講座を実施。昨今のデジタル推進ということあり、勤労福祉会館、祖父江生涯学習センター「ソブエル」で初めての試みとして実施。
- ・民法改正により成人年齢が引き下げられたため、昨年度より成人式から二十歳のつどいに名称を変更。市民会館大ホールの天井改修工事のため昨年度は豊田合成記念体育館 ENTRIO で開催。

(スポーツ課)

- ・地区体育振興会の運動会は新型コロナウイルス感染症の影響により全て中止。
- ・各体育振興会の会長と意見交換を実施。新型コロナウイルス感染症の影響で3年間中止や縮小したことで、役員交代により実施している状況が分からない方ばかりになっており、特に3年間中止となっている運動会の運営をどうしたらよいかと各体育振興会が悩んでいる。
- ・各事業実施できるよう支援していきたい。

(図書館)

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により利用を取りやめていた学習室や視聴覚資料の館内視聴について、座席数、利用数に制限はあるが、順次利用を再開したことにより実績数が増えているものがある。講座・イベントなどの事業についても定員など一部制限や変更があるものの順次再開し、コロナ前の状況に戻りつつある。

(美術館)

- ・昨年度は荻須作品を3点受贈し、合計245点となった。
- ・個人から新規に2点受託。新規寄託作品は、常設展示にて3月23日から展示公開。
- ・特別展でアンケートを実施。
稲沢からの来館者36.9%、県内・市外49.3%
初めての来館者2割、5回以上4割強
音声ガイドの導入要望があったため、秋の特別展から利用できるよう準備している。
- ・新規来館者を増やせるようPR方法を考えていく。また、リピーターを増やせるよう事業展開していくことが重要だと考えている。

※質疑応答

(副委員長)

- ・令和5年度に廃止した事業はあるか

(生涯学習課長)

- ・社会教育の関係ではスマホ講座の参加者が思ったより少なかったので回数を減らした。その代わりに地域学校協働活動などの事業等が増えている。

(副委員長)

- ・祖父江の寿教室の回数が7回から6回になって寂しくなったと感じている。

(生涯学習課長)

- ・合併当時7市民センター地区のうち3地区で回数も少なく、祖父江地区では毎月8回、6校区で実施されていた。少しずつ回数の差をフラットにしている。

(A委員)

- ・青少年健全育成市民大会についてどのような方に参加の案内をしているか。

(生涯学習課主幹)

- ・社会教育委員、市議会議員、連合婦人会、民生児童員等のほか市内の一般の方。

(B委員)

- ・いい内容だったので一般の方にもっと広く知ってもらえるのはどうか。

(生涯学習課主幹)

- ・広報、HPで案内し、一般の方も参加してもらえらる工夫をしていきたい。

(A委員)

- ・多くの方に市民展が開催されるということを知らせていただいて、文化のまち稲沢ということで多くの方に応募していただけるような工夫をしていただきたい。一般応募の数が伸びていない。本年度に関してどのように考えているか。

(美術館主査)

- ・市民展の出品数は3年度から若干増。市民展が第60回の記念会となりますので、審査員にも出品を依頼し、記念賞の創設をする。PRにつきましても積極的に行っていきたい。

(C委員)

- ・11月の社会教育委員会から神戸市や名古屋市が追加されている。この実見調査の内容についてお聞きしたい。前回、津島高校にも荻須作品があるということをお伝えしたと思うが状況をお聞きしたい。

(美術館主査)

- ・作品調査の内容につきましては、1点は今年度購入予定作品の事前調査を行った。2点は寄付いただけるとのお話しいただいたので、調査させていただき昨年度寄付を受けた。津島高校の作品につきましては、昨年度より以前に調査させていただいており、委員に御指摘いただいた後、津島高校のOBとお話しさせていただいている。

(副委員長)

- ・スポーツ少年団以外にハンドボールスクールなどの団体が学校へ募集等のチラシを配布していいか。

(スポーツ課長)

- ・稲沢市が金銭的に補助しているのはスポーツ少年団になる。また、指導者もボランティア的に指導していただいているということで、学校ごとに団員の募集ということでチラシの配布をお願いしている。スポーツ少年団以外にも様々な競技でクラブチームが多く存在しており、協会の教室も行っている。クラブチームになると月謝等をいただいているので、どこからが営利で、どこまでがボランティアなのか分からないところがあり、営利に協力するということができないので、学校にチラシを配布するということができない状況であったが、今後部活動の地域移行が発生してくる。また、各学校の部活動でなくなる競技も出てこようかと思う。そのようなときに学校にはこの種目ないけどやりたいという子のために、どのようなクラブチームが存在し、月いくらか、どのレベルでやっているかといった情報は積極的に提供できればと思っている。また、クラブチームの方々にも助けていただかなければ、そのスポーツができなくなる恐れがある。学校教育課、学校とも相談しながら、情報発信も積極的にしていければと思っている。今年度検討委員会を開催する予定で、検討委員会で方向性を決め、どのように進めていくか方針を決定していく。

(委員長)

- ・小中学校の部活動は、スポーツそのものを強くするという目的ではなく、教育活動だった。学校の先生方の負担の問題、技術の問題から外部コーチをお願いするという話が走ってしまった。それから様々な団体があり、実際に子どもたちもそちらへ行って参加している。そうすると学校でやる部活動と民間との関わりを考え直さなきゃいけない時代に入ったのだろうと思う。稲沢市はいつもどこかの営利に関

わることはダメという。だから他の町に比べて遅れる。この辺のことも考え直さなければいけない。

※令和4年度主要事業報告について承認

(委員長)

- ・今年まで実施してきたことについて方向性の提案があればお聞かせいただきたい。

(D委員)

- ・部活動の地域移行について現実的なことはまだ具体的になっていないかと思う。個人の方がクラブチーム作って、例えば学校にPRをお願いするとなると把握するのが大変になるのではないか。登録制にするとか、学校のクラブとして養成していくことに協力したいという指針を出してもらって、部活動と連絡を取って募集するという形でないかと思う。部活動の地域移行はまだまだ検討していかなければいけない。

(委員長)

- ・時代は変わってきており、事業の割り方についても根本的に考えなければいけない。

3 令和5年度主要事業に係る取組みについて

資料2・3について生涯学習課、スポーツ課、図書館、美術館の順で説明

※質疑応答

(C委員)

- ・生涯学習推進計画の見直しについて、文科省で計画を出し、愛知県がそれを参酌していると思うが、それを参酌しているか。
- ・市制65周年開催の記念特別講演のところで、前回のところで来館者の若年者の割合が低いということで、どのくらいかという対策をしていくかを質問させていただき、対策としてはインスタ等の発信ということでしたが、今年も実施するかお聞きしたい。

(生涯学習主幹)

- ・委員のお力をお借りして、国や県計画等も参考にしながらやっていきたい。

(美術館主査)

- ・若年層の割合は、50歳以上が7割以上。若年層を増やす取り組みとしてはインスタグラム、ツイッターを始めさせていただいた。
- ・特別展ではないが、企画展でゲームボーイやスーパーファミコンで作られたゲームの原画の作品を展示する。企画展で若年層を取り込み、リピーターを増やしていければと思っている。

(美術館長)

- ・磯野宏夫さんは中学校の教科書の表紙のイラストを担当されていた。40代ぐらいの人にPRすると呼び込み効果が高いのではないかと思う。

(B委員)

- ・地域学校協働活動事業について、研修会の内容については決まっているか。

(生涯学習課主幹)

- ・実際に研修の講師や内容は未定。愛知県でコーディネーターの研修が組み込まれている。オンラインで参加できるものもあるので活用していきたい。

(B委員)

- ・研修会に社会教育委員が入っていけないか。東海北陸社会教育研究大会で土岐市さんでは社会教育委員がコーディネーターと兼任していると聞いたので、社会教育委員として何か役に立てないか。

(生涯学習課課長)

- ・今回の研修会につきましては、まだ始まったばかりということで、推進員自体が何をしたいか分からないというところで、それに対する説明のための研修会となっているので、少し趣旨が違うということをお願いする。

(E委員)

- ・電子書籍について、どの年齢層に向けて導入されるか。
- ・ギガスクールの関係で端末を持っているが、そことの連携をしていただけるものかというと思っている。

(図書館長)

- ・電子図書館導入時に意識していたことは、図書館においていただけない方への配慮。子育て中で、小さな子どもを連れて来館することが難しい方向けのコンテンツ。高齢者が文字を大きくして読んでいただけるような作品及び音声コンテンツといったところで人気のもの踏まえ、紙の書籍とは違うバランスで購入している。また、小中学生への対応としては同じ本をみんなで読むことができる読み放題パック 50冊というパッケージも御利用いただけるので、学校にも案内している。

4 その他

◎ 閉会あいさつ

(教育部長)

〈午後4時15分閉会〉